

塾の『こころ』とは—エイスウ Club, 12月4日運営部会で考える

開倫塾

塾長 林 明夫

Q1: 塾の「こころ」というテーマで、昨年12月4日の、エイスウ Clubでお話し合いがあったそうですね。

A: (1) これから塾の存在意義を考え、明るい未来を夢見る「こころ」を持って新年を迎えると、主宰者である、山本千秋先生はじめ、ご参加の皆様が、素晴らしいご発表をなさり、感銘と多くの示唆をいただきました。

(2) 貴重なご意見をお聞かせいただき、山本代表と、ご参加の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

Q2: 林さんはどのようなことをお話したのですか。

A: (1) 10月中旬から12月末まで、東京・栃木・群馬の各経済同友会の活動として、ほぼ毎週のように、中学校や高校で「働くとは何か」「なぜ勉強するのか」「学校時代に身につけておいた方がよいことは何か」などをテーマに、「キャリア教育」の出張授業をさせていただいております。

(2) そこでお話をさせていただいていることの一つに、「価値（大切さ）」「意味（意味付け）」「秩序（やりたいこと、できること、やるべきことを考え、自律的行動）」があります。

(3) 働くこと、学ぶこと、様々な活動の「価値（大切さ）」を、まずは知る。そして、そのことの意味を考え、意味付けを行う。そのうえで、なすべきこと、しないことを考え、自分なりのルール（秩序）で自律的行動すること。

(4) 学習塾でも、この「価値」「意味」「秩序」を活用し、日々の教育活動をすることが「塾のこころ」と考えます。

(5) 毎年、11月第3木曜日は、国際連合が定めた「ユネスコ世界哲学の日（UNESCO World Philosophy Day）」です。

(6) 開倫ユネスコ協会では、毎年11月第3木曜日に、「ユネスコ世界哲学の日」記念講演会を開催しています。本年は、11月21日（木）に、足利商工会議所4階の渡良瀬ホールで、午後1時～3時まで開催。毎年の共通テーマは、「価値・意味・秩序、今、哲学しよう。哲学なくして、ユネスコなし」です。

○おおむね、以上のような、お話をさせていただきました。

Q3: 学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A: (1) 折角の年末・年始です。ご自身の塾・予備校・学校の「こころ」とは何かをお考えになり、おまとめになられ、年初や新学年の基本方針として、皆様にお伝えしたらと考えます。

- (2) 年末年始には新聞や TV、雑誌で、今年を振り返り、新年を展望する特集がたくさん組まれます。
- (3) 旧年の「復習」、新年の「予習」をするつもりで、ついに、ノートを取りながら、お読みになると、素晴らしい勉強ができます。

Q 4 : 最後に一言どうぞ。

A : 毎月、僭越とは存じますが、先生方がお読みになれば、必ず、お役に立つ本を、ご紹介させていただいております。

(1) ①今月の一冊目は、「孟子」です。塾の「こころ」を考える場合に、何を目指して人間形成をすべきかが問われます。

②孔子の教えを 499 の章に弟子たちがまとめた「論語」とともに、孔子の一番弟子といわれる「孟子」は避けて通れません。

③折角ですから、「論語」とともに「孟子」も、全文を通して、じっくりお読みいただきたく存じます。

④小林勝人著「孟子（上）（下）」岩波文庫、1968 年 2 月 16 日刊。各章ずつ、「現代語訳」を鉛筆を持ちながらゆっくり読み、じっくり理解することを、おすすめします。

⑤「孟子」は、内容が具体的で、わかりやすい例がふんだんに用いられていますから、ドンドン読みます。興味のある章は、「書き下し文」も、小さな声で、音読すると、さらに理解が進みます。

⑥「論語」も、「孟子」と同じように、現代語訳と「書き下し文」を中心に、鉛筆を片手に、お読みください。

⑦「論語」のおすすめは、加地伸行著「全訳注、論語」講談社学術文庫、2009 年 9 月 10 日刊です。

(2) 二冊目は、梶田叡一著「<自己>を育てる、眞の主体性の確立」金子書房、1996 年 5 月 30 日です。塾の「こころ」を考えるのに最もふさわしい名著です。

(3) ①三冊目は、W・チャン・キム+レネ・モボルニュ著「破壊なき市場創造の時代、これからのイノベーションを実現する」ダイヤモンド社、2024 年 10 月 1 日刊です。

②「経済善」と「社会善」の両立を目指す、これからのイノベーション。同著「ブルー・オーシャン戦略」ランダムハウス講談社 2005 年 6 月 22 日刊とともにご一読を。

③この二冊は、塾の「こころ」を事業化するのに、参考になります。

(4) ①四冊目は、小泉八雲著「日本の心」小泉八雲名作選集、講談社学術文庫、1990 年 8 月 10 日刊です。

②2025 年 10 月からの、NHK 朝の TV ドラマは、小泉八雲の奥様が主人公です。

③10 月までに、小泉八雲の作品を、講談社学術文庫の「小泉八雲・名作選集」で、できるだけ多く読み、「予習」。この秋の、小泉八雲大ブーム（？）に備えるのも、一興。

(5) ①五冊目は、保坂弘司著「大鏡、全現代語訳」講談社学術文庫、1981 年 1 月 10 日です。

②NHK 大河ドラマ「光る君へ」を、熱心にご覧になった今なら、スラスラではないにしても、以前よりは、格段に親しみ深く、読み通せるのが、全文、現代語訳の、この「大鏡」です。

③以前の、大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」の時にご紹介した、「吾妻鏡」の現代語訳より、はるかに読みやすいと思われます。

④「光る君へ」で、「刀伊の入寇」に御興味を持たれた先生は、関幸彦著「刀伊の入寇、平安時代、最大の対外危機」中公新書、2021 年 8 月 25 日刊を、ぜひ最後までお読みください。

(6) ①第六冊目は、小泉悠著「現代ロシアの軍事戦略」ちくま新書 2021 年 5 月 10 日刊です。

②先月ご紹介した、黒田祐我著「レコンケスタ、『スペイン』を生んだ中世 800 年の戦争と平和」中公新書、2024 年 9 月 25 日刊では、イスラム勢力とキリスト勢力の攻防が、1402 年まで、丸 800 年続き、現在のスペインが誕生した歴史が丹念に描かれています。

③大国の領土拡張政策は、侮れません。

(7) ①第七冊目は、京都府立医科大学元病院長・学長 山岸久一、脳神経内科専門医・指導医・医博 重松一生著「諦めない、認知症・難病に挑戦する再生医療、再び健康な日々を過ごすために」アークメディア (TEL03-5210-0821) 2024 年 4 月 12 日刊です。

②認知症・難病に挑戦する再生医療、自己脂肪由来幹細胞の点滴治療の第一人者、山岸先生の最新著。

③山岸先生は、公益財団法人がん集学的治療研究財団の理事長でもいらっしゃいます。

④認知症やパーキンソン病、ALS (筋萎縮性側索硬化症)、慢性閉塞性肺疾患など、これまで治療が難しいとされていた疾病に対し、治療効果を発揮する、最先端の再生治療です。

⑤自己脂肪由来幹細胞の点滴治療に御興味ある先生は、ぜひ御一読ください。

○新年も、どうかよろしくお願ひいたします。

12 月 7 日記